

遠回り

第30号 目次

令和五年十二月十日
認定NPO法人
ロシナンテス 発行

01 ピックアップ

P1.....マザーシェルター 2 棟目建設

02 スーダンだより

P2.....軍事衝突から 7 か月、スーダン情勢
P3.....支援地の今 / 現地スタッフメッセージ

03 ザンビアだより

P4.....スマホアプリを用いた母子保健事業
P5.....マザーシェルターに井戸建設
P6.....結核事業の研修実施

04 読み物

P7.8...ザンビア村落部インタビュー
P9...ザンビア事務所引っ越し
P10...曇外蒼天：ザンビアの開発協力
P11...日々ツラツラ日記：ザンビアの花々

05 イベント、国内活動

P12,13...イベント案内 / イベントレポート
P14...ロシナンテスが2つの賞を受賞
P15...ふるさと納税協働事業採択

06 事務局からのお知らせ

P16...寄付型自動販売機/PC購入で支援
P17,18...スタッフ紹介 /JAMMIN再販売/ 事務局だより

01 ピックアップ

安全、安心な出産をひろげたい マザーシェルター2棟目を建設します



写真/上山 敦司

ロシナンテスは、ザンビアの中央州チサンバ郡に2棟目のマザーシェルターを建設する予定です。マザーシェルターとは妊娠8ヶ月以降の妊婦さんが出産後まで宿泊する建物で、医療施設の近くに設置されます。今回の建設では、2021年にムワプラで建設した1棟目での満足度調査やデータを参考にし、安全、安心な出産を行えるだけでなく、幅広く産前健診や産後健診も行える場所にしたいと考えています。郡とも協力し、必要とされる場所に必要なサービスを提供することで、出産環境を改善することを目指します。建設期間は約4～6か月とし、完了は2024年5月頃の予定です。

ムワプラ診療所で働く看護師 グウェンさん

マザーシェルターができて、妊婦さんたちは、ここで待つことができるようになりとても楽になりました。以前は自宅で産気づくのを待ってから25km歩くか、自宅を出産しなければなりませんでしたから。私たちは、とても感謝しています。



ムワプラのマザーシェルターを利用した妊婦 ジェニファーさん

私の前の出産は診療所内の古い分娩室で行われましたが、この分娩室には産後室や待合室などの適切な設備が整っておらず、一度に複数の出産があるとスペースがありませんでした。しかし今は、十分な部屋があり、非常に広々としています。

02 スーダンだより



➤ 軍事衝突から7か月、混迷のスーダン

4月15日にスーダンで国軍とRSF（ダルフルの民兵組織を起源とする準軍事組織）との武力衝突が発生してから7か月が経過しました。隣国や国際社会による調停努力にもかかわらず、首都などでは依然として激しい戦闘が続いています。

今回の軍事衝突の直接的なきっかけは、正規軍とRSFを統合するという計画が合意されなかったことに起因します。2019年のクーデター以降、紆余曲折しながらも民主化へのプロセスが徐々に進んでいましたが、その過程において、軍部の組織改革を行い、双方が権力を委譲することが求められていました。しかし、2つの組織は、RSFが正規軍に統合されるまでの期間と、軍が正式に文民統治下に置かれる時期の2点において同意ができませんでした。4月の初旬には、民政移管の最終合意に署名する予定となっていたのですが、合意の予定日は何度も延期され、両者の主張が折り合わないまま、対立が発生してしまいました。

国連によると、この軍事衝突による死者の数は9千人を超え、スーダン国内では推定490万人が避難を余儀なくされています。さらに、およそ120万人が隣国の中央アフリカ、チャド、エジプト、エチオピアなどに逃れています。また、スーダンの国際NGOフォーラムの発表によると、国連機関や援助団体に対する強盗・襲撃も増えており、国内医療機関の8割以上は破壊されたり、兵士が立て籠ったりしているために機能していない状態だということです。

この紛争で、国内の多くの地域で農業への深刻な影響を及ぼしており、今後数ヶ月間の食料安全保障への懸念が高まっています。また、7月に雨季が始まって以降、北部州やダルフル地域を含めた9つの州で大規模な洪水が発生しており、今後も被害の拡大が懸念されています。

02 スーダンだより



ロシナンテスの支援地はいま

診療所の建設や昨年度ハフィール改修を行ったウッド・シュウェイン村と、9月に久しぶりに連絡が取れました。村の水委員会のハサンさんによると、直接的な戦闘の影響はないこと、8月中旬から雨が降り始め、ハフィールに水が溜まり住民たちは水を活用することができているとのことでした。



また、昨年度学校建設を行った北コルドファン州のオムサマーマ村も、同じく戦闘の大きな影響は受けていないとのことでした。

現地スタッフ ラビーアからメッセージ

私たちはそれまで、とても安全に暮らしており、戦争が起こる心配など全くしていませんでした。今はハルツームを離れ地方の都市で4家族で平和に暮らしながら、毎日私たちの国に安全が訪れることを祈っています。



当面の間、私たちは安全な状況ですが、軍事衝突のために私たちの生活は変わりました。この目まぐるしく悲惨な状況から逃れられるよう、私たちは年長者や子どもたちを助けることに多くの時間を使っています。その一方で、あらゆるものが高価になりつつあるため、日々のお出費を節約したりしています。

軍事衝突下でも、ロシナンテスがスーダン人スタッフと良好なコミュニケーションをとり、サポートを続けていること、日本の人々が心配してくれたり、優しさを表明してくれていることに感謝しています。ありがとうございます。

スーダンに一日も早く平和が訪れることを願っています。

03 ザンビアだより



スマホアプリを活用し母子の健康を守る 産官学N G O連携プロジェクト開始

7月より、総務省の「ICT海外展開パッケージ支援事業の地方枠」の助成を受けて新規事業を開始しました。これは、スマートフォンアプリを用いたデジタル産科健診パッケージ（SPAQ）を医療施設に導入し、その有効性を実証していくプロジェクトです。



SPAQは、電子カルテ機能をもつスマホアプリです。従来、小型エコーなどの様々な検査データは独立して管理されていましたが、これらをSPAQに統合し医療データを一元的に管理することで、総合的な情報分析が可能になります。医療施設間のコミュニケーションが円滑になり、村落部でも子宮外妊娠や前置胎盤・癒着胎盤、多胎といったケースの早期特定、さらには設備の整った病院へのスムーズな連携ができることを目指しています。



チサンバ郡の4つの医療施設を
対象にしたスタッフ研修

このプロジェクトでは5つの日本の組織（株式会社SOIK、ロシナントス、九州大学、BioSeeds株式会社、ヘルスアンドテック合同会社）が参画しています。2024年1月までの実証事業となり、終了後この分析結果をもとにザンビア政府や援助機関と協議を行い、導入地域を拡大するための道筋を策定する予定です。

03 ザンビアだより



マザーシェルターに井戸ができました！

2021年にマザーシェルターを建設したムワプラ地域では、水不足が課題です。これまで村には共用の井戸が1つしかなく、それを学校、市場、近隣世帯、診療所で分け合っていたため、すぐに水が枯渇してしまっていました。そこで、ロシナンテスは、十分な量の水を使用できるよう、井戸の掘削を行いました。



こちらが、完成した井戸です。私たちが想像する井戸とはちょっと違うのですが、電気で地下から水をくみ上げ、地面に埋めたパイプを通して、診療所やマザーシェルターに給水しています。

分娩の際、感染症を引き起こすリスクを避けるために清潔な水は不可欠です。この井戸で、出産時の妊婦さんの水分補給や、出産後の清掃においても、水が不足する心配をしなくて済みます。

また今回は、徒歩10分程度の距離にある小学校にも水を供給し、運動場の近くに蛇口付きの給水設備を設置しました。マザーシェルターで出産する妊婦さんたちを合わせると、年間で約1400名弱が井戸の水を利用できることになります。



ムワプラ診療所にある井戸は、古い井戸と合わせて2基となりました。水の管理は、地域の「水管理委員会」が担います。各世帯から月に40クワチャ(約360円)を徴収し、維持管理にかかる費用を賄います。ロシナンテスは、水管理委員会と地域を代表する会議に関わり、運用が安定するまでサポートを行う予定です。

03 ザンビアだより



結核患者の早期発見に向けて 研修を行いました

ロシナンテスは、ザンビアで感染者数の多い結核に対処するため、富士フイルム株式会社が開発したポータブルX線撮影装置を活用し、患者の早期発見を目指す事業を行っています。

ポータブルX線撮影装置は中央州チサンバ郡、チボンボ郡にある4つの医療施設へ試験導入され、1台の装置を4か所で共同利用するローテーション活動を予定しています。対象となる医療施設はチサンバ郡からはリテタ郡病院、チサンバヘルスセンター、チボンボ郡からはムワチソポラ郡病院、ムワンジュニ診療所です。



チサンバヘルスセンター、ムワンジュニ診療所には、もともとX線装置がなくX線画像診断を行わないために、診断に対して自信がない方もいました。そこで、両施設では、ローテーション実施前にX線画像診断の研修を各2日間実施しました。

研修には各施設から準医師、看護師を含んだ5名が参加しました。研修では最初に基本的知識を復習し、その後、X線画像を見て診断する実践的練習を行いました。参加者の中には自信がない方もいたものの、練習を重ねるにつれて、より正確な診断を下せるようになっていきました。次回の進捗では、ローテーション活動や活動の成果などをご共有する予定です。

04 インタビュー特集

▶▶ ザンビアの村落部の人々に 突撃インタビュー！

ロシナンテスが事業を行っているザンビアの村落部に暮らす人々は、どんな人たちなのでしょう？現地スタッフが中央州チサンバ郡にあるチペンビヘルスセンターにて、インタビューしました！



チポさん（32歳）
ヘルスセンターに来たお母さん



メロディさん（24歳）
ヘルスセンターの助産師

好きなものは？
日本ってどんなイメージ？

牧師になりたいです。	Q1.将来やりたいことは何ですか？	進学して、産科医になりたいです。 
サッカー 	Q2.どんな遊びが流行っていますか？	サッカー、ネットボール
技術が進んでいる国	Q3.日本をどう思いますか？	他の人、特に弱い立場の人に対する情熱があり、解決策を見つける手助けをしてくれる。
仕事をしていますが、休日は家で子供たちの世話をしています。	Q4.休日は何をしていますか？	副業、家族との団らん、友人とバスケットボールなどのゲーム
ゴスペルを聴くこと、聖書を学ぶこと	Q5.趣味は何ですか？	読書（自己啓発本、スピリチュアル本、健康本など）
野菜（叩いた落花生を混ぜたもの）とシマ（白トウモロコシの粉をお湯で練って作る主食） 	Q6.好きな料理は？ 	デンテレ（砕いた落花生、玉ねぎ、トマトを加え、干し魚を叩いてローストしたもの）

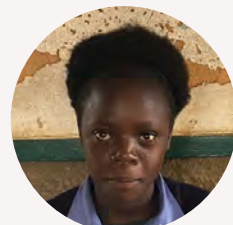
04 インタビュー特集

▶▶ ザンビアの村落部の人々に 突撃インタビュー！（続き）



マーシーさん（30歳）
ヘルスセンターに来たお母さん

わたしたちは、こんな一日を
過ごしています！



マチルダちゃん（13歳）
小学校7年生

起床、
朝食（主にシマ、たまに米）

5:00



午前中の過ごし方
家の周りの掃き掃除、
火の準備、ガーデニング



午後の過ごし方
昼食の準備、洗濯、家の掃除、休憩



夕食の準備、夕食、
子供の入浴、
絵本の読み聞かせ

20:00



寝る準備をし、就寝

21:00



7:00



起床、お祈り、朝食
（主にお粥、時々パンや紅茶も）

平日の過ごし方
学校で勉強やスポーツ
（サッカー、ネットボール、陸上競技など）

休日の過ごし方
午前中／皿洗い、家の掃除、水汲み
午後／皿洗い、掃除、食事作り

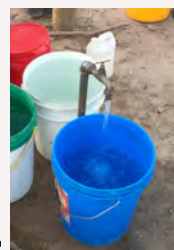
19:00 食事の準備、夕食、勉強



22:00



妹と就寝



04 コラム

≫ ザンビア事務所引越しました！

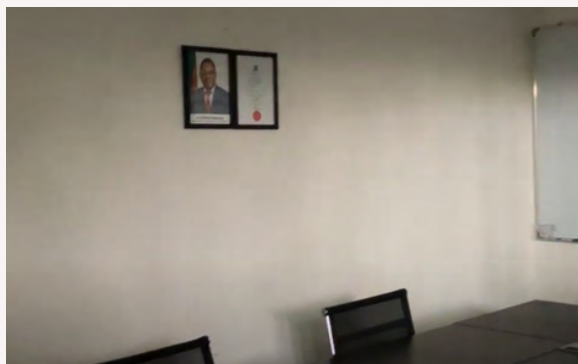
ザンビアの首都ルサカにあるロシナンテスの事務所は、7月に移転しました。以前の事務所は、作業スペース以外にキッチンや庭などがある家屋でしたが、今回移転した場所は、他の企業も入っているビル内です。

以前の家庭的な雰囲気とは違って新しい経験ですね。自分専用のオフィスエリアやデスクを持てるようになったので、ビジネスライクな雰囲気で仕事をしに来たという感じがします！

現地スタッフ ダリオ



会議室には、現大統領のハカインデ・ヒチレマ氏の写真とNGOの登録証が飾ってあります。ザンビアでは企業や病院、公的機関は大統領の写真を掲げる義務があるそうです。



事務所の周辺には、カルンドゥマーケットという市場があります。レストランや薬局など様々なお店が並んで賑わっています。



事務所のビルの目の前には、赤子を抱えた母親像が建っています。どのような意味があるのかは不明ですが、母子保健事業を行っているロシナンテスにとっては親近感があり、日当たりが良いため、記念写真はいつもこの像の前で写真を撮っています。この場所での写真をご紹介しますことがあるかもしれません。ぜひ楽しみにしていただけると嬉しいです。

04 雲外蒼天

➤ 開発協力とザンビア 今後の展望

2023年6月9日、日本政府は政府開発援助（ODA）を規定する「開発協力大綱」を8年ぶりに改定しました。今回の改定では、「オフア型協力」とともに、「途上国の債務の持続可能性」について言及されたことが特筆されます。

この、援助相手国の債務に配慮することが明記された背景には、中国がアジア・アフリカでこれまで進めてきた莫大な援助の存在が伺えます。中国は、「一帯一路」構想のもと、発展途上国のインフラの整備に巨額の投資を行ってきました。しかし、返済能力に乏しい発展途上国が債務の返済に行き詰まり、債権国に対して融資を受けて建設したインフラの権益を渡す「債務のわな」と呼ばれるケースが発生していました。ロシナンテスの活動するザンビアも中国から巨額の投資を受けており、鉄道やインフラの建設が進みましたが、2020年11月に債務不履行に陥っています。

アフリカでは、こうした背景から、中国に偏っていた協力関係を見直す動きが起きており、米国や日本も、アフリカにおける巻き返しを図るべく外交が行われています。西村経済産業大臣は、8月にアフリカ5カ国を歴訪し、資源国であるザンビアとの包括的な関係構築を目指し、鉱業分野における協力に関する共同声明に署名しました。

一方、ロシナンテスも、ザンビアの開発に貢献するため、マザーシェルター建設などで日本政府と連携してきました。また、政府資金を活用するほか、民間企業、学術機関など各組織とのコラボレーションした事業も同時並行で進めています。変化する国際社会や技術革新を柔軟にとらえ、多様な資金・多様な組織と連携しながら、NGOとして現地のニーズに寄り添った支援を行っていきます。

04 日々ツラツラ日記

≫ ザンビアのいろどり豊かな花々たち

みなさまこんにちは。スーダン駐在員の七條です。4月末にスーダンから退避した後、4か月の日本でのリモートワークを経て、8月末にザンビアに赴任し、約2か月が経過しました。

ザンビア事務所では、電子カルテアプリとモバイルエコーを用いたデジタルヘルス促進事業を主に担当しています。どっぴり南半球エリアに入るのははじめてなので、暑い夏にクリスマス？などと少し緊張しながら渡航準備を進めてきました。



首都ルサカに到着して驚いたことは、緑が豊かであり、樹木が彩り鮮やかなことです。これはアフリカのどこの国でも言えることですが、日本にいとアフリカ大陸というのは砂漠か草原のサバンナのイメージが強いかもしれません。しかし実際は大通り沿いには街路樹として大きな樹木が植えられており、公園や共有地、大邸宅の庭先でもカラフルな樹木が目を引きま



10月前半までは薄紫の花が鮮やかなジャカラランダ（日本名：紫雲木）、10月後半に入るとアフリカンチューリップ（日本名：火焰木）がとても鮮やかに咲いています。この二つは世界三大花木の一つだと聞いて驚きました。日本人は桜や金木犀で季節を感じますが、こちらの人たちも木々の色合いで季節の移ろいを感じるのかな、と思いつつ、日々を過ごしています。

05 イベント、国内活動

参加費無料 報告会、イベント開催！！

■2023年12月22日（金）20:00~21:00

マザーシェルター2棟目建設 ザンビア活動報告会（オンライン）

ザンビア中央州チサンバ郡で、2棟目のマザーシェルターを建設するために準備を進めています。駐在員から活動詳細をご報告いたします。

[>>申し込みはこちら](#)

■2024年1月13日（土）14:00~15:30 ※ご支援者様限定※

皆さまのご支援でできたこと 2023年を振り返って（オンライン）

2023年を振り返って、理事長の川原より、感謝の気持ちを直接お伝えするとともに、活動報告と今後の展望についてお伝えします。

[>>申し込みはこちら](#)

■2024年1月21日（日）16:00~17:30

結核事業 ザンビア活動報告会（北九州・オンライン）

ザンビアで、ポータブルX線撮影装置を活用して結核患者の早期発見を目指す事業を行っています。活動とその効果についてご報告いたします。

[>>申し込みはこちら](#)

■2024年3月6日（水）～12日（火）

アフリカを知る活動展示会「医とところと人」（北九州）

ロシナンテスのザンビアでの活動や、現地の人々の暮らしを、写真家上山敦司さんの写真で紹介する活動展示会を北九州で行います。

[>>詳細はこちら](#)

■2024年3月9日（土）13:30~15:30

ロシナンテス活動報告会 & 写真展ツアー（北九州）

理事長川原による活動報告会を開催します。報告会后、「アフリカを知る活動展示会」会場に移動し、川原自らが案内する写真展ツアーも行います。

[>>申し込みはこちら](#)

05 イベント、国内活動



【イベントレポート】5月14日、8月17日 ムワプラ診療所へようこそ！ザンビアオンラインツアー

ロシナンテスの事業地であるザンビアのムワプラ診療所を訪ねるオンラインツアーを開催しました。

首都ルサカの事務所からムワプラ地域までの道のりをたどりながら、診療所とロシナンテスが建設したマザーシェルトーの中を、理事長川原がご案内、さらに近隣の村の様子や、宿泊している妊産婦さんたちの生活もご覧いただきました。



イベントは終了いたしました。5月14日開催のアーカイブ動画をご覧いただけます。ご希望の方は[こちら](#)よりお申し込みください。



【イベントレポート】8月11日、9月30日 久しぶりの会場開催、講演会@大阪＆東京

新型コロナウイルスの流行により長らくオンラインのみのイベントが続いておりましたが、この度、大阪および東京にて、久しぶりの会場開催の講演会が実現しました！



8月11日の大阪では、同会場で、ザンビアでの活動を撮影くださった写真家上山敦司さんの写真展も行われており、ザンビアの人々を切り取った素敵な写真が展示されました。川原による講演会后、上山さんによる写真展ツアーも行われました。また、東京では、9月30日に株式会社セントラルユニ様のマッシュアップスタジオをお借りして開催しました。

ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

05 イベント、国内活動

ロシナンテスが2つの賞を受賞しました

ロシナンテスは、この度「第1回 第一交通産業創業者黒土始賞」および「第30回 読売国際協力賞」という、2つの栄誉ある賞をいただきました。

この受賞は、長年にわたりロシナンテスを支えてくださっているご支援者の皆さま、スーダン、ザンビアで事業に協力いただいている関係者やパートナー団体の皆さまも含め、これまでロシナンテスと関わってくださっている全ての皆さまのおかげだと強く感じております。これを励みとし、誰もが健やかに生きることができる世界を実現するため、今後もさらにアフリカの地域医療に尽力してまいります。

第1回 第一交通産業創業者黒土始賞

「第一交通産業創業者黒土始基金」は、地域経済の持続的な発展または地域社会の福祉の向上に貢献のあった中小零細企業および団体・個人を表彰するものです。

第30回 読売国際協力賞

「読売国際協力賞」は、さまざまな活動を通じて国際社会への貢献の重要性を身をもって示した個人や団体、企業を顕彰するため、1994年に読売新聞創刊120周年を記念して創設された賞です。今回ロシナンテスは、スーダンでの巡回診療など17年にわたりアフリカでの医療支援に貢献してきたことを評価され、受賞するに至りました。



12月1日に開催された贈賞式
(川原は写真中央)

[≫贈賞式の様子はこちら（動画：読売新聞オンライン）](#)

05 イベント、国内活動

北九州市でふるさと納税を活用した協働事業 「アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト」スタート

ロシナンテスは、企業版ふるさと納税（※）を活用し、NPOと北九州市が協働で実施する地域課題解決事業「アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト」を実施することになりました。

このプロジェクトは、国際社会で活躍できる人材を育てるためのプログラムとして実施されるものです。2024年3月までの実施分について、北九州市の企業版ふるさと納税から補助金が交付されます。ロシナンテスと学校等が連携して、北九州市の子どもや市民がアフリカの文化・問題を学べる場を提供していきます。



※企業版ふるさと納税とは、国が認定した地方公共団体の地方創生の取り組みに対し、企業が寄付を行った場合に、法人関係税から税額控除する制度です。最大で寄付額の9割が軽減されます。

【活動内容①】 出前授業

アフリカでの生活経験がある元教諭や講師が、市内の小学校・高校に出向き、現地の生活や文化について授業を実施します。日本との違いを知り、自分たちの生活を振り返ることで世界に関心を向け、国際理解を深める機会を提供します。現在のところ、市内の8校の小学校と、1校の高等学校で実施を予定しています。

【活動内容②】 活動展示会および活動報告会

写真を通じてアフリカの現状やロシナンテスの活動について知ることができる活動展示会、および活動報告会を開催します。本イベントは、市民に開放しており、どなたでも参加可能です。3月の上旬に開催いたします。詳細は[12ページ](#)をご覧ください。

06 事務局からのお知らせ

ロシナンテスの「寄付型自動販売機」を設置しませんか？



寄付型自動販売機とは、自動販売機の売上げ1本ごとに、任意の額をロシナンテスへ寄付をすることが出来る自動販売機です。

ロシナンテスでは、この寄付型自動販売機の設置にご協力いただける個人、法人様を募集しています。設置オーナーは、設置初期費用や、管理の手間もかからず、購入者も気軽にアフリカ支援に参加することができます。

【お問い合わせ】

設置にご関心のある方は、お気軽に下記までご連絡ください。

特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会

フリーダイヤル 0120-937-650 <http://kjf.or.jp/rocinantes.html>

PC購入で支援！寄付額アップキャンペーン実施中

ロシナンテスでは、パソコン購入で支援できる取り組みを行っています。環境への負荷ゼロを目指すエシカルパソコンZERO PCを購入すると、購入金額の一部がロシナンテスへの寄付になります。

このZERO PCは、寄付になるだけでなく、地球環境の保護と、難民支援にもなるパソコンです。

12月は、寄付の割合が3%から10%にアップするキャンペーンを実施しています！パソコンをお買い換えをお考えの方は、ぜひご検討くださいませ。

【購入はこちら】 https://zeropc.jp/report/omou_rocinantes



06 事務局からのお知らせ

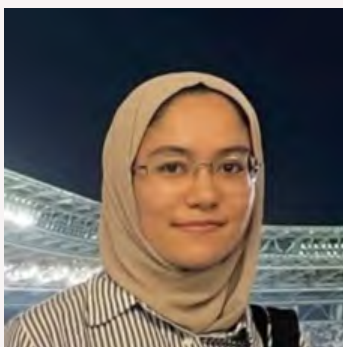


新しくロシナンテになった スタッフのご紹介



インターン 葛島 裕士

高校時代からの関心もあり、感染症や国際保健に強い長崎大学に入学しました。ケニアに行った際には、マラリア対策に取り組まれる先生方の姿を見て、「医」を届けることの大切さを実感しました。多くの方に活動を知っていただけるよう活動させていただきます。



インターン 高田 彩

幼い頃から日本とエジプトの生活格差を体験する中で、国際的に活動するNGOというものに興味を持ち始めました。ロシナンテスで少しでもアフリカの人々のためにお役に立てるよう頑張りたいと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。



インターン 塚原 万葵

9月からインターンとして参加しております、塚原万葵です。ロシナンテスの、持続可能性を重視した「医」を届ける活動に興味をもち、今回参加いたしました。様々なお仕事やイベントを通して皆様と関われたら嬉しいです。よろしくお願いいたします。



インターン 永野 優希

世界中の人々が平等に医療を受けることができる世界にしたいと思い、国際協力に携わりたいと思いました。「誰もが健やかに生きることができる環境をつくる」というロシナンテスの想いを、多くの方に届けられるように頑張ります。

06 事務局からのお知らせ

「JAMMIN」コラボ チャリティー アイテム販売御礼&再販売のお知らせ

10月2日から1週間、チャリティー専門ファッションブランドである「JAMMIN」さんが、Tシャツやバッグなど、ロシナンテスオリジナルデザインのチャリティーアイテムを販売してくださいました。1週間で、350点もの販売、133のSNSによる記事シェアがありました。寄付総額は212,730円となりました。ご協力くださった皆さま、誠にありがとうございました！



この度、皆さまのリクエストにお応えして、2024年1月末までJAMMINのウェブサイトにて再販売を行っております。ぜひこの機会にお買い求めください。

【ご購入はこちら】 <https://jammin.co.jp/c/charityfor/rocinantes/>

事務局だより

ザンビア駐在員の佐藤です！4月にこの土地に降り立ってから、もう半年以上が経ちました。強い日差しに負けずに働いています。

現在の私の小さな目標は、現地の言葉を少し話せるようになることです。私たちの事業地は地方に位置しており、英語を話さない地元の人々との会話は、ちょっぴり難しいことも。そこで、ローカルスタッフから少しずつ現地の言葉の一つであるニャンジャ語を学び、簡単な挨拶ができるようになりました。異国から来た自分が現地の言葉で挨拶すると、多くの人々が好意的に受け入れてくれ、友好的なコミュニケーションが取りやすくなる時が多いです。

私たちロシナンテスは、地域住民・地域の医療従事者と協力し事業を行っており、円滑な事業進行に信頼構築は特に大切です。現地の言葉での挨拶は、相手の文化や伝統を尊重を示す重要な行動の一つだと考えています。ジョークを言えるぐらいに頑張ります。